

	一般的名称	報告の概要
517	レボホリナートカルシウム	大腸癌患者67例を対象としたFOLFOX6/ペバシズマブ/cetuximabのPhase II 試験において、好中球減少症および下痢と肺線維症により2例が死亡した。
518	ヨード化ケシ油脂肪酸エチルエステル	n-2-butylcyanoacrylateとエチオドールの混液を静脈モデルに投与したところ、血液凝固や血球円柱がみられ、ヨード化ケシ油脂肪酸エチルエステル単独でも胎盤の末梢血管に塞栓形成が見られた。
519	ヨード化ケシ油脂肪酸エチルエステル	シスプラチンとヨード化ケシ油脂肪酸エチルエステルを投与された原発性肝臓癌患者において、腹痛、悪心・嘔吐、胃部不快感、発熱が高頻度に発現し、シスプラチン単独投与の場合と比べ、早期に重篤な血小板減少が誘起されることが示唆された。
520	ミコナゾール	副作用症例報告データベース(CARPIS)を用いたケースコントロール研究において、日本人の不整脈の起因薬剤として、ジソピラミド、塩酸リドリン、ミコナゾール、ハロタン、塩酸チオリダジン、チオペンタールナトリウムで有意差が認められた。
521	ベタメタゾン	芍薬甘草湯とセンナ製剤を併用した30人中6人で低カリウム血症が発症した。
522	デソゲステル・エチニルエストラジオール	経口避妊薬の使用により、浸潤性子宮頸癌のリスクは使用期間とともに増加することが示唆された。
523	セレコキシブ	セレコキシブを高用量使用すると、心血管系イベントの発生リスクが高まり、ベースラインリスクが高い患者で本剤に関連する心血管系イベントのリスクが高まることが示唆された。
524	ジクロフェナクナトリウム	CYP2C9で代謝されるNSAIDs・COX IIの急性使用者により胃十二指腸出血病変のある26名において、CYP2C9*1/*3やCYP2C9*1/*2型の割合が高かった。
525	ジクロフェナクナトリウム	長期ジクロフェナク使用患者において、主要な心筋梗塞の危険因子のない患者でも心筋梗塞の起こる可能性が示唆された。
526	ノルエチステロン・エチニルエストラジオール	BRCA1/2変異保有者で経口避妊薬を使用した場合、乳癌発症リスクが高まることが示唆された。
527	インターフェロン ベータ-1a(遺伝子組換え)	インターフェロンベータによる中和抗体が、皮下投与で14~62%、筋肉内投与で2~18%の発生頻度で報告されている。
528	ホスフェストロール	新生仔期にホスフェストロールを高用量投与された雌ラットにおいて、乳癌が頻発する可能性が示唆された。
529	リファンピシン	結核を有するHIV感染者3例を対象としたアタザナビルとリトナビルを含む抗レトロウイルス治療とリファンピシンの併用時の薬物動態をプロスペクティブに検討したところ、アタザナビルの血中濃度が低下することが示唆された。
530	ホリナートカルシウム	Dukes BとCの結腸癌患者910例を対象とした術後補助療法としてのフルオロウラシル/葉酸/イリノテカン(CPT-11)併用療法とフルオロウラシル/葉酸併用療法を比較したPhase III試験において、両群で各3例死亡した。
531	リツキシマブ(遺伝子組換え)	indolentまたはハイリスクaggressive B細胞性非ホジキンリンパ腫患者46例を対象として移植前のリツキシマブ投与群、非投与群を比較したところ、リツキサン投与群で移植後のサイトメガロウイルス感染リスクが高くなることが示唆された。
532	ノルエチステロン・エチニルエストラジオール	経口避妊薬使用者において、使用期間が増えるに伴い子宮頸部、中枢神経系、下垂体で発癌リスクが高まることが示唆された。